

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
新川崎地区

平成23年2月

神奈川県川崎市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	容積率の割増	%	200	300~400	300~400	確定 ●	○	あり		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	土地の高度利用が図られ、拠点地区にふさわしい街並み形成が進みつつある。
指標2	歩行環境満足度向上率	%	20	80	93	確定 ●	○	あり		H23年6月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	十分な広さの歩行空間が整備され、人どおりが増え、まちに活気が生まれた。
指標3	放置自転車率	%	5	2	2	確定 ●	○	あり		H23年6月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	自転車レーン、駐輪場の整備等により、区内における自転車環境の向上が図られている。
指標4	駅乗降客数	人	47,100	69,200	57,723	確定 ●	△	あり ●		H23年6月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	増加傾向にあり、活力あるまちづくりという目標に対し評価できるが、引き続き地区の魅力発信が必要。
指標5						確定 ●		あり		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	地区人口	人	37,774	/	39544	確定 ●	/	/		H 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	基盤整備等の実施により、住環境が向上し、人口増という結果となった。
その他の数値指標2	歩行環境満足度	%	7.8	/	78.3	確定 ●	/	/		H 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	十分な広さの歩行空間が整備され、人どおりが増え、まちに活気が生まれた。
その他の数値指標3			/	/	/	確定 ●	/	/		H 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるため に行う方策	地区計画等に基づく秩序あるまちづくりの継続	地区計画に基づく規制・誘導	地区計画等の規制・誘導により調和した街並み形成が進んでいる。	
	都市基盤整備の継続	第2期の都市再生整備計画を作成	平成22年度より、引き続き都市再生整備計画事業を開始。	
	東部市街地まちづくり課題の対応	公園管理運営協議会の設立	地元住民との協働により、魅力ある公園づくりが行われている。	
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	未開発街区における土地利用の誘導	研究施設・企業誘致事業の推進	未利用だった約1.8ヘクタールの市有地について、面積で8割以上の土地に複数の企業進出が決定した。	
	東部市街地まちづくり課題の対応	地域住民と行政の協働により、地域住民のコミュニティ施設づくりが実現した。	地元住民の憩いの場として、施設が活用されている。	
	都市基盤整備の促進	立体遊歩道、交通広場等の整備事業の継続	現時点は、計画どおり事業が進捗している。	引き続き、事業の円滑な実施を図る。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
地区の目標に整合した土地利用転換の推進	研究開発施設整備を都市再生整備計画事業の関連事業として追加する。	23年度	
既存公共施設の更新による市民利用機能の強化	地区の貴重な地域資源である夢見ヶ崎動物公園の機能更新を都市再生整備計画事業に追加する。	23年度	土地の権利関係の整理 活動している市民団体との協力体制の構築 魅力を発信する施策展開／等

都市再生整備計画(精算報告)

しんかわさき
新川崎地区

かながわけん かわさきし
神奈川県 川崎市

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	カナガワケン 神奈川県	市町村名	カワサキシ 川崎市	地区名	シノカワサキチク 新川崎地区	面積	187.2 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

<p>目標</p> <p>本地区は、創造、活力、ゆとり、安心の融合を特色とする都市拠点の形成を図る。</p> <p>開発目標1:「ものづくり」と「創造のもり」を一層発展させるため、研究開発を主眼に置き、併せて人の創造活動を刺激する環境を提供</p> <p>開発目標2:「緑を中心とした憩い」「防災」「研究開発と交流・学び」など市民利用機能を整備</p> <p>開発目標3:新たな活動やライフスタイルが創出されてくる基盤とし都市居住環境を提供する</p>																																												
<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>新川崎地区のまちづくりについては、操車場跡地周辺の既存市街地と横浜市域を含めた約90haにおいて計画が策定され、川崎市域(約76ha)については平成3年度建設大臣の承認を得た「新川崎地区都市拠点総合整備計画」に基づき土地区画整理事業として進めてきた。その後平成10年度に国の事業再評価において、土地区画整理事業約76haの段階整備による方針が決定し、第一段階整備では、操車場跡地約33haの土地区画整理事業を行い、第二段階以降の整備については、地元権利者と調整を行いながら進めていくこととした。</p> <p>平成12年度には、政府与党三党による公共事業の見直しが行われ、操車場跡地の土地区画整理事業は「継続」とし、東部市街地、西部市街地の事業については、「中止」となり、市が事業化方策の再検討を行うこととなりました。</p> <p>平成14年度では川崎市政改革プランが公表され、新川崎地区土地区画整理事業について「C」(※)として事業の見直しが必要な地区とされ、また、土地区画整理事業の前提条件であった横須賀線新駅設置については「D」となり、休止、中止、廃止等を含め抜本的な見直しが必要との位置付けがなされた。</p> <p>これにより、操車場跡地の土地利用計画の見直しとして、学識・産業界・市民代表による、「新川崎地区都市拠点整備土地活用方策検討委員会」を設置し、平成14年度、平成15年度の2か年に渡り同委員会により、操車場跡地についての有効活用方策の検討がなされ、本年3月に開催された委員会において土地利用方針が示され、その担保として「地区計画」による都市計画決定を行う。</p> <p>※ 行財政改革プランによる優先順位の区分 A:実施条件に変化がなく、事業の進捗状況等から判断して、計画通りに実施するのが妥当と判断される事業。 B:事業の必要性、妥当性等から実施を前提とするが、事業の内容・手法・実施時期等について検討を要すると考えられる事業 C:事業内容の妥当性、効率性等から現行計画の抜本的見直しを要すると考えられる事業。 D:改革3年間は着手を見送るべき事業。この間、中止、休止廃止を含めて見直しを図る。</p> <p>課題</p> <p>・地区の約60%を所有している(独)鉄道・運輸機構は、平成10年度の閣議決定により平成15年度内の土地売却が義務付けられており、平成16年度内の土地売却が予定されている。このため、地区の乱開発を防止するため、「地区計画」の都市計画決定を行い、秩序あるまちづくりを行う必要がある。</p> <p>・昭和59年に操車場が廃止され、以降20年間に亘り低未利用地となっている。</p> <p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>本市の都心である川崎・新川崎・鹿島田駅周辺地区は、「川崎都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」において、広域的な商業・生活・文化等の諸機能の集積を図り、中核的機能を担う地区にふさわしい市街地の整備を進める地区と位置づけられている。この都心の一部を構成する新川崎地区は、これら諸機能の整備と併せて、ものづくり・研究開発機能の強化を通じた産業の創出・育成及び市民利用機能の整備を図る地区としている。</p>																																												
<p>目標を定量化する指標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指 標</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">定 義</th> <th rowspan="2">目標と指標及び目標値の関連性</th> <th>従前値</th> <th>基準年度</th> <th>目標値</th> <th>目標年度</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>容積率の割増</td> <td>%</td> <td>地区内の建物容積率の割増</td> <td>地区計画による都市計画決定により土地の高度利用を図る。</td> <td>200%</td> <td>平成16年度</td> <td>300~400</td> <td>平成21年度</td> </tr> <tr> <td>歩行環境満足度向上率</td> <td>%</td> <td>ペDESTリアンデッキ及び歩道設置による歩行環境の満足度</td> <td>ペDESTリアンデッキ及び歩道設置による歩行環境の改善の効果を利用者の満足度で評価する。歩行環境の満足度を把握し80%の満足度を目指す。</td> <td>20%</td> <td>平成16年度</td> <td>80%</td> <td>平成21年度</td> </tr> <tr> <td>放置自転車率</td> <td>%</td> <td>新川崎駅周辺における自転車利用台数に占める放置自転車台数の割合(バイク等も含む)</td> <td>交通拠点機能の強化度合いを放置自転車率の変化で評価する。新規整備台数等を考慮し6割程度の軽減を目指す。</td> <td>5%</td> <td>平成16年度</td> <td>2%</td> <td>平成21年度</td> </tr> <tr> <td>駅乗降客数</td> <td>人</td> <td>新川崎駅乗降客数</td> <td>各街区の開発等によるまちの賑わい(交流)の向上度合いを、駅乗降客数の増加で評価する。</td> <td>47,100人</td> <td>平成14年度</td> <td>69,200人</td> <td>平成21年度</td> </tr> </tbody> </table>	指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度					容積率の割増	%	地区内の建物容積率の割増	地区計画による都市計画決定により土地の高度利用を図る。	200%	平成16年度	300~400	平成21年度	歩行環境満足度向上率	%	ペDESTリアンデッキ及び歩道設置による歩行環境の満足度	ペDESTリアンデッキ及び歩道設置による歩行環境の改善の効果を利用者の満足度で評価する。歩行環境の満足度を把握し80%の満足度を目指す。	20%	平成16年度	80%	平成21年度	放置自転車率	%	新川崎駅周辺における自転車利用台数に占める放置自転車台数の割合(バイク等も含む)	交通拠点機能の強化度合いを放置自転車率の変化で評価する。新規整備台数等を考慮し6割程度の軽減を目指す。	5%	平成16年度	2%	平成21年度	駅乗降客数	人	新川崎駅乗降客数	各街区の開発等によるまちの賑わい(交流)の向上度合いを、駅乗降客数の増加で評価する。	47,100人	平成14年度	69,200人	平成21年度
指 標					単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度																																	
容積率の割増	%	地区内の建物容積率の割増	地区計画による都市計画決定により土地の高度利用を図る。	200%	平成16年度	300~400	平成21年度																																					
歩行環境満足度向上率	%	ペDESTリアンデッキ及び歩道設置による歩行環境の満足度	ペDESTリアンデッキ及び歩道設置による歩行環境の改善の効果を利用者の満足度で評価する。歩行環境の満足度を把握し80%の満足度を目指す。	20%	平成16年度	80%	平成21年度																																					
放置自転車率	%	新川崎駅周辺における自転車利用台数に占める放置自転車台数の割合(バイク等も含む)	交通拠点機能の強化度合いを放置自転車率の変化で評価する。新規整備台数等を考慮し6割程度の軽減を目指す。	5%	平成16年度	2%	平成21年度																																					
駅乗降客数	人	新川崎駅乗降客数	各街区の開発等によるまちの賑わい(交流)の向上度合いを、駅乗降客数の増加で評価する。	47,100人	平成14年度	69,200人	平成21年度																																					

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(市街地環境の改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路、交通広場等の都市基盤と一体となった、業務核都市にふさわしい広域的な商業・業務拠点づくりを推進する。 ・産業の創出・育成を目指したものづくり・研究開発機能を強化する。 ・都市生活にゆとりとうるおいを与え、良好な都市景観の形成を図る緑豊かな公園等の都市空間を確保する。 ・市民の運動等に活用が可能となり、災害時における周辺市街地からの火災延焼防止機能向上及び市民の避難に寄与する公園・広場を新たに整備するとともに、道路等公共基盤の機能拡充による都市空間を確保する。 ・都市居住の多様なニーズに対する都市型住宅を計画的に導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地方特定道路整備事業 (基幹事業) 地区幹線道路・交通広場・区画道路・歩行者専用道路・跨線橋補修 ○公園整備事業 (基幹事業) 公園等の整備 (基幹事業) 夢見ヶ崎公園へのアクセスサインの設置 (基幹事業) 塚越三丁目公園の整備 (提案事業) 夢見ヶ崎公園擁壁耐震改修 ○下水道事業 (提案事業) 雨水・汚水管渠
<p>整備方針2(交通環境の改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR横須賀線新川崎駅からの歩行者の安全性、利便性を確保するため、歩行者専用のデッキにより交通広場、周辺市街地への動線を確保する。また、駅周辺の放置自転車対策として新たな駐輪施設を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地方特定道路整備事業 (基幹事業) 立体遊歩道整備・自転車駐車場整備
<p>整備方針3(住民参加によるまちづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良好な都市空間の創出として地区内に2.1haの公園・緑地の計画について住民参加による緑づくりの検討を行っていく。 ・操車場跡地を中心とした周辺既成市街地について、区域全体の開発目標の達成に向けた住民参加による新たなまちづくりの検討を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公園整備事業 (提案事業) 公園・緑地整備方針策定 ○整備計画等作成業務 (提案事業) ・色彩ガイドライン作成 (提案事業) ・東部、西部市街地整備計画策定
<p>その他</p> <p>本地区は、創造、活力、ゆとり、安心の融合を特色とする都市拠点の形成を図る。</p> <p>開発目標1:「ものづくり」と「創造のもり」を一層発展させるため、研究開発を主眼に置き、併せて人の創造活動を刺激する環境を提供</p> <p>開発目標2:「緑を中心とした憩い」「防災」「研究開発と交流・学び」など市民利用機能を整備</p> <p>開発目標3:新たな活動やライフスタイルが創出されてくる基盤とし都市居住環境を提供する</p>	

